

### 3. 既存樹の早期樹形改造法（すばっと主枝再生法）

#### 【技術の概要】

既存樹を低樹高化できる樹形改造技術です。改造3～4年目から収穫が可能で、将来的には10a換算で2.0～2.5tの収穫が期待できます。既存樹の樹形を選ばず、また画一的に作業できるため誰でも取り組むことができます（図7）。

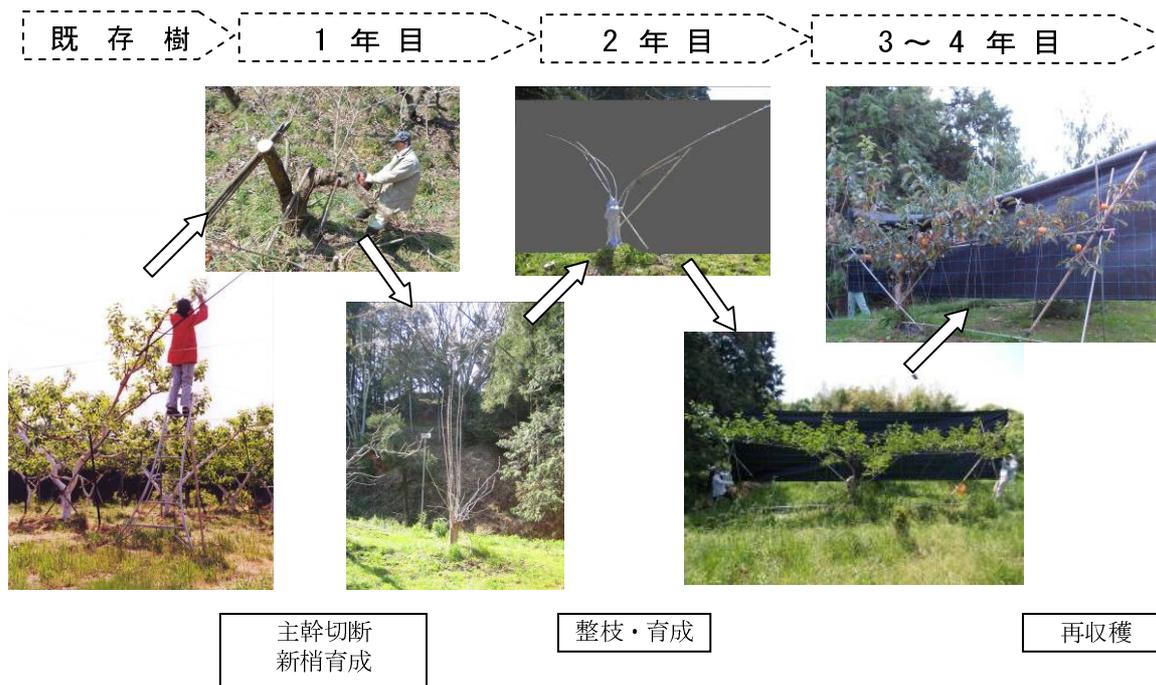


図7 既存樹の早期樹形改造法のながれ

#### 【本技術の導入に向けて】

##### (1) 資材の準備

「すばっと主枝再生法」を行うためには、以下の資材が必要です。

作業工程	資材・器具	備考
主幹切断	チェーンソー 癒合剤 バークストリッパー等	既存樹の切断 切断面の保護 粗皮けずり
病虫害防除	農薬資材	枝幹害虫の防除
新梢育成	支柱、そえ竹 わらなわ	新梢の折損予防
主枝候補枝の誘引	φ22mm 鋼管 わらなわ 癒合剤 げんのう かしめ工具 番線	主枝候補枝の支柱 主枝候補枝の鋼管への結束 切込み誘引を行う場合、切り口の保護 支柱の打ち込み 接続した鋼管をかしめる 鋼管同士の接続
その他	せん定ばさみ せん定のこぎり	発生した新梢の切除等

(2) 技術の実践

(a) 主幹切断

→ 参考データ 27ページ

地上高 60cm程度の位置でチェーンソーを用いて切断します。その際、斜めに切ると力を込めやすく切断が容易になります（図8）。怪我には十分に注意してください。

切断面には癒合促進のために癒合剤を塗布します。また、ヒメコスカシバ等の枝幹害虫防除のため、主幹部の粗皮削りを行います（図9）。



図8 既存樹の切断



図9 切断した主幹部の粗皮削り

(b) 新梢育成

→ 参考データ 27ページ

開花期頃に切断した主幹部の不定芽から新梢が発生します。新梢の長さが40～50cm程度に伸長したときに芽かきを行います。1芽あたり3～4本の新梢が発生しますので、それを1本にした後に株あたり10～20本程度（株の大きさに応じて調整）に芽かきします（図10）。新梢が硬化しないうちに強い雨に打たれると新梢の腰が折れるため、仮支柱を打ってそれに新梢を抱き合わせて折損を防止します（図11）。樹勢の良好な樹では、1年で2m以上に新梢が伸長します。

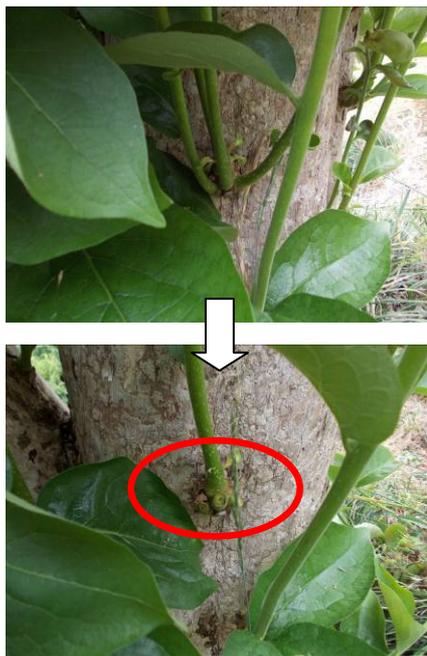


図10 発生した新梢の芽かき（左：1芽あたり芽数の調整 右：芽かき前後の樹姿）

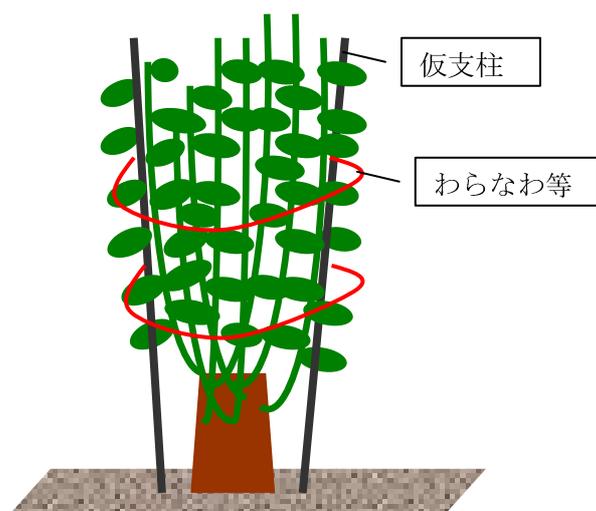


図 11 発生した新梢の仮支柱への誘引例

## (c) 主枝候補枝の整枝・育成

→ 参考データ 28ページ

初年度の冬季のせん定では、育成したい方向の主枝候補枝をそれぞれ2本程度残し（うち1本は予備枝）、その他の新梢を切除します。ここでは2本主枝で仰角15度程度の低樹高に仕立てるように設定します。主枝を育成したい方向に支柱を打ち込みしっかりと固定して、そこに主枝候補枝を誘引し、わらなわで結縛します。誘引した主枝候補枝が風で振られることのないよう、ぐらつかない程度まで誘引します（図12）。その際、主枝候補枝を折損することのないよう、慎重に行ってください。まず誘引の支点となる部分を結縛し、それから先端部に向けて誘引・結縛を行うとスムーズです。誘引時期については、主枝候補枝を円滑に曲げられるようなら冬季に行い、曲げられなければ樹液流動が始まり主枝候補枝が柔軟性を帯びてから行います。主枝候補枝の先端角度が小さすぎると背面部から徒長枝の発生を助長し、樹形を乱しますので、先端はやや立てるようにします。2年目の発芽期以降、順調に主枝候補枝の新梢が伸びることを確認し、残していた予備枝を切除し主枝を確定します。生育が順調であれば、2年目には主枝の骨格が完成し、3年目には着蕾します（図13）。



図 12 設置した支柱への誘引（左：支点の固定 右：誘引後の樹姿）



図 13 樹形改造 3 年目の春季（低樹高 2 本主枝仕立て）

(d) 枝幹害虫の防除

樹形改造中にヒメコスカシバ等の枝幹害虫に食入されると、新梢の伸長が劣るうえに折損しやすくなります（図 14）。主幹切断時(a)の粗皮削りに加え、芽かき時および 7 月下旬にガットサイド S 等を新梢基部に丁寧に塗り防除します（図 15）。また、スカシバコン等の交信攪乱剤の併用処理も有効です。夏季以降の食入も見られるため、虫糞が見られる場合は再度、新梢基部の粗皮削りを実施し、捕殺してください。



図 14 新梢基部に食入したヒメコスカシバの幼虫



図 15 芽かき時ガットサイド塗布後の様子

【留意事項】

- 本技術は「刀根早生」および「平核無」で試験を行ったものです。その他の品種については未確認ですので、実施の際には試用を行い新梢の発生を確認してください。
- 主幹切断後の新梢の発生には樹齢による影響は見られませんが、樹勢の弱った樹では新梢発生量、新梢伸長程度が劣るため樹勢を回復させてから行って下さい。